

◇経済情報学科 主要科目の特長

科目	特長
ミクロ経済学	<p>ミクロ経済学の基礎理論を学びながら、経済学的考え方を身につけることを目標とする。周知のように、私たちが暮らしている自由主義経済(市場経済)では、市場メカニズムが重要な役割を演じている。ミクロ経済学は、市場のはたらきを分析するための手法である。そこで、この授業では、基礎的な概念からしっかりと勉強し、市場のはたらきについて理解を深め、私たちの身近にみられる問題について経済学的に分析するための基礎的な力を養う。具体的には、需要曲線・供給曲線これらを用いて、価格の変化に関する分析を行いながら、消費者行動、生産者の行動に関する理解を学び、市場経済における資源配分メカニズムについて考察し、この経済体制のもつ特徴について理解を深める。</p>
マクロ経済学	<p>講義では、まず短期のマクロ経済の構造を国民所得(あるいは国民経済計算)勘定体系の理解からはじめ、単純なケインズ理論、現代の主流派マクロ経済学にまで発展した理論構造を正確に把握することに重点が置かれる。後半では分析の次元を長期化して、なお国際的な広がりの中の国民経済を分析するために、経済成長・景気循環や開放マクロ経済学を取り上げ、技術進歩と生産性の変化、為替レートや経常収支の変動をも考察する。</p>
経営学総論	<p>私たちを取り巻く社会は、目まぐるしく変化している。とりわけ20世紀に大きく進展した情報化・国際化の流れは、社会を大きく変化させることとなった。これらの変化の主な要因として考えられるのが、大企業の登場である。この授業では、企業と私たちが直接かわる身近な問題から入り、企業と社会とのかかわり、企業活動の本質などについて解説する。なお、企業にかかわる大きなニュースについては、随時、テキストの範囲を超えてトピックスとして取り上げていきたい。</p>
簿記論	<p>週2回の授業があるので、基本的には、週の最初の時間は基本的な内容について簿記の原理的解説を行う。次の時間に解説した内容に関連する問題を解き、知識の定着を図る。</p>
情報数理	<p>コンピュータで情報処理を行ったりプログラムを作成したりするためには、その情報を誤解のない状態で正しくとらえ、間違いのない結論を正確に導く力が必要となります。この授業では与えられた情報を真と偽のどちらかに判定可能な命題として整理し、それを記号化して論理演算により結論を導くといった論理的な思考を数学的に行う方法について学びます。</p>

◇経済情報学科 主要科目の特長

科目	特長
プログラミング I	<p>コンピュータを使って実現できることやプログラミング言語の特徴や歴史などプログラミングの基礎知識(前半部分)を学ぶとともに、課されている問題の解決手段としてのプログラミングの処理や制御など技法の獲得や論理的な思考方法の養成を行いながらプログラミングの基礎の確立を目指す。授業は基礎となる知識や理論・方法を説明する講義と、C言語を使った演習を併せて行う形態で行う。 この科目は『プログラミングII』へ接続する。</p>
プログラミング II	<p>この授業では、プログラミング I の基礎を踏まえて、より幅広いプログラミング技法を身に付けることを目標とする。自らの考えを記述できる表現力と、正確に実行できる技術力を身に付ける。 プログラミングを行うことの意義を明確にし、解決手段の一つとしてプログラミング言語を自由に扱うことができるように学習する。まず、C言語の出力、演算、入力、条件分岐、繰り返しといった文法を用いて、基礎的なプログラムを組めるかどうかの確認をおこなう。そして、C言語の配列、関数、ポインタ、構造体、ファイルの入出力といった文法を確実に習得する。その理論を理解するとともに、コンピュータを活用し、目の前で確認しながら演習を進める。最終的には、実行したい内容を正確に記述できる力を身に付け、これまでの文法を活かした発展的なプログラミングが組めるようにする。</p>
情報システム学	<p>情報システムは高度化する情報社会に欠かせない存在であり、コンピュータやネットワークといった情報技術の側面からだけでなく、情報技術を利用するという側面からも理解する必要がある。前半は、情報システムとは何かという一般論からはじまり、さまざまな社会活動における情報システムの利用についての基礎を学習し、情報システムの全体像を大所高所から理解することを目標とする。後半は、複雑で大規模な情報システムの開発で重要となるソフトウェア開発について学ぶ。開発に必要な工学的な手法を「ソフトウェア工学」と呼ぶ。ソフトウェア技術者が最低理解しておかなければならないソフトウェア工学の基礎知識を習得する。授業方法は、週2コマのうち、1つを講義中心、もう1つを演習中心とする。</p>